

研究報告 抄録選考基準

項目	NO	内 容	要修正
表題・副題	1	内容を適切に表現している。	
緒言・目的	2	この研究により何を明らかにしようとしているかが明確である。	
	3	研究の意義が明確である。	
	4	文献検討が適切である。	
方法	5	研究方法は、研究目的・目標達成のために妥当である。	
	6	対象は適切である。	
	7	データ収集方法および手順を示している。	
	8	分析方法は妥当である。	
結果	9	研究目的にそった結果を示している。	
	10	事実を客観的に示している。	
	11	図表の表現・体裁は適切である。	
考察	12	得られた結果に基づいた解釈をしている。	
	13	研究目的にそった考察で一貫性がある。	
倫理的配慮	14	個人が特定されないように配慮している。	
	15	固有名詞（当院・当病院・市町村名を含む）を使っていない。	
	16	倫理審査委員会において研究に関する倫理審査を受け、承認を得ていることを示している。	
	17	倫理審査委員会に相当する機関で承認を得た場合は、「倫理委員会相当の機関から承認を得た」ことを記載のうえ、「対象者から自由意思による承諾を得た」こと、「研究ならびに発表の承諾が得られている」こと、「対等者の不利益が生じないように配慮した」ことを明記している。	
	18	既存の尺度を使用する場合、著作者から許諾を得たことを記載し、出典（文献）を明記している。 尺度を改変して使用する場合は、作成者から許諾を得たことを明記している。	
	19	薬品や検査器具等は一般名称を用い、（ ）内に商品名と登録商標の場合は®を記載している。	
	20	文献を引用する場合、著作権に配慮し文献を明記している。	
発表価値	21	看護実践に意味ある事実や知見がある。	

実践報告 抄録選考基準

項目	NO	内容	要修正
表題・副題	1	内容を適切に表現している。	
背景・目的	2	実践の背景が具体的かつ論理的に記述されている。	
	3	背景から導かれる必要性・意義が明確であり、実践のねらいが一貫している。	
実践内容・方法	4	実践の内容（手順・過程や成果）を明確に示している。	
	5	実践の目的に対して、取り組み方法が合理的かつ妥当である。	
結果	6	目的にそった結果を示している。	
	7	事実を客観的に示している。	
	8	図表の表現・体裁は適切である。	
考察	9	得られた結果に基づいた解釈をしている。	
	10	目的にそった考察で一貫性がある。	
実践への示唆	11	看護実践に意味ある事実や知見が明確に示されている。	
倫理的配慮	12	個人が特定されないように配慮している。	
	13	固有名詞（当院・当病院・市町村名を含む）を使っていない。	
	14	倫理審査委員会において実践報告に関する倫理審査を受け、承認を得ていることを示している。	
	15	倫理審査委員会に相当する機関で承認を得た場合は、「倫理委員会相当の機関から承認を得た」ことを記載のうえ、「対象者から自由意思による承諾を得た」こと、「実践ならびに発表の承諾が得られている」こと、「対等者の不利益が生じないように配慮した」ことを明記している。	
	16	既存の尺度を使用する場合、著作者から許諾を得たことを記載し、出典（文献）を明記している。 尺度を改変して使用場合は、作成者から許諾を得たことを明記している。	
	17	薬品や検査器具等は一般名称を用い、（ ）内に商品名と登録商標の場合は®を記載している。	
	18	文献を引用する場合、著作権に配慮し文献を明記している。	
発表価値	19	看護実践に意味ある事実や知見がある。	